

令和6年度 羽咋市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議録

【要旨】

日時 令和6年8月22日（木）19:00～21:40

場所 羽咋市役所 401会議室

○出席者

会 長：松田 孝司（羽咋市社会福祉協議会会長）

副 会 長：藤岡 直樹（羽咋市町会長連合会会長）

委 員：杉浦 繁（株式会社ハクイ村田製作所取締役工場長）

出村 太一（日本郵便株式会社羽咋千里浜郵便局長）

舩網 哲雄（七尾公共職業安定所羽咋出張所所長）

出雲 香苗（羽咋市教育委員会教育委員）

松田 宏明（羽咋市校長会西北台小学校校長）

寺島 昭（日本政策金融公庫金沢支店支店長）

出来田 敬司（株式会社中日新聞社北陸本社通信局長）

番匠 未樹（羽咋市青年団協議会会長）

浜辺 正美（羽咋市スポーツ協会副会長）

寺崎 友康（羽咋市銀行会北陸銀行羽咋支店支店長）

夏嶋 里帆（公募委員）

オブザーバー：辻 智子（北陸財務局総務課長）

大島 和宏（石川県中能登総合事務所所長）

アドバイザー：高山 純一（公立小松大学サステイナブルシステム科学研究科教授）

平子 紘平（金城大学総合経済学部設置準備室准教授/博士(工学)、
金沢大学 客員准教授）

○欠席者

委員：三井 孝秀（はくい市観光協会会長）

藤本 裕子（羽咋市商工会理事）

澤田 英三郎（はくい農業協同組合代表理事常務）

西 敏之（西司法書士事務所代表）

上田 清春（羽咋地域ライフ・サポートセンター羽咋事務局長）

高野 淳（株式会社北國新聞社羽咋総局長）

市側出席者：岸 博一（羽咋市長）
川口 哲治（副市長）
山本 裕一（総務部長）
片山 みゆき（市民福祉部長）
前田 剛克（産業建設部長）
和田 美紀（総務部参事）
政氏 祥代（商工観光課長）
森田 庸介（デジタル推進室長）
崎田 智之（まちづくり課長）
安達 崇（災害復興推進室長）
木田 和子（総務課参事）
見附 敦史（まちづくり課課長補佐）
松岡 正樹（まちづくり課係長）
東 幸代（まちづくり課主査）
長野 正寛（デジタル推進室主査）
濱垣 僚基（まちづくり課主事）

1. 開会

2. 開会あいさつ（岸市長）

本市の課題であります少子高齢化・人口減少についての様々な施策に関して、皆さまよりお力添えいただいていること感謝申し上げます。

人口減少は、特に能登全体の課題でございます。

1月1日発生した令和6年能登半島地震において奥能登を中心に甚大な被害が起き、本市におきましても液状化の影響で多くの方々に被害が出ており、中には羽咋市外へ避難されている方もいらっしゃいます。

住民票を移動せずに避難されている方も多いため、人口増減の実態把握は難しいですが、従来の人口減少対策に加えて、災害に対する復旧・復興にも新たな課題として取り組む必要が出てまいりました。

復旧復興に関しては莫大な資金が必要となるため、国・県からの予算をもって、対応することが肝心だと思っています。市民の皆さんが、元の生活に戻れるよう勧めてまいります。

人口減少対策・復興復旧に取り組み本市が能登地域の復興のシンボルになることができるように、力を尽くしていきたいと考えております。

本日は、80施策のうちの重点施策5項目に関して審議いただきます。

皆さまのご意見・評価を受け、施策へ反映させていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

3. 委員等の自己紹介、事務局の紹介

(略)

4. 総合戦略会議組織について（正副会長の選任）

事務局からの推薦により、会長に松田孝司委員、副会長に藤岡直樹委員を選任。

5. 会議の公開及び会議録等の取り扱い等について

(略)

6. 報告事項

(1) 羽咋市の人口推移について

(略)

(2) 第2期総合戦略の効果・検証結果（案）について

(略)

7. 重点審査及び一括審査

(1) ■基本的施策名：(I-4-(2)) 企業立地・誘致の推進

□重要業績評価指標（KPI）：①誘致企業の新規雇用者数

(質疑①) A委員：人手不足の顕現とあるが、これまで若者の雇用不足が人口流出の要因とされていたが、現在の人手不足の要因も同様か。また、人手不足であれば、若者を呼び戻すきっかけになるのではないか。

(回 答) 政氏商工観光課長：ハローワークや雇用対策協議会と共同で高校での出張説明会や県内高校生を対象とした市内企業見学会、志賀町との合同就職説明会を実施している。若者が勤めたいと思う企業を誘致していきたい。

(回 答) 岸市長：企業は高卒新卒者の雇用を希望しているが、市内の高卒新卒者は都会志向にあり市外企業で勤務希望する人が多いのが現状。そのため募集しているが人手不足となっている。加えて県の求人倍率が1.5倍であるが、若者が職場を選ぶ時代になっている。

(質疑②) B委員：企業としても企業の魅力づくり、また、地域へ貢献できるよう努めている。また、企業の魅力だけでなく、住むまちの魅力づくりも必要ではないか。企業誘致の懸念点としては人の取り合いになってしまうのでは。企業誘致におけるこの先の見通しについて聞かせてほしい。

(回 答) 岸市長：いかに羽咋市民が働きたいと感じる企業を誘致できるかが課題である。また、誘致企業に人材が流れる可能性もあるため、その点を考慮し市内企業とバランスを見ながら働く人の環境づくりに取り組んでいく。

(意 見) C委員：ハローワークは災害復興と就職者支援の2本柱で進めている。羽咋市にも魅力的な企業はあるので、若者にアピールしていきたい。

【採決結果】総合評価：◎

(2) ■基本的施策名：(Ⅱ-1- (1)) 観光資源の魅力を活用した官民・広域連携による誘客の促進

□重要業績評価指標 (KPI)： ①千里浜、柴垣海岸でのイベント参加者数

(意見①) D委員：コロナが明けたことにより交流人口が増加している。千里浜ではSSTRが1つの核となっているがほかに柴垣海岸やその他観光施設等を有機的に結びながら更なる人の流れを呼び込んでいただきたい。

(質疑①) E委員：千里浜は全国的に知名度が高いが、その他の観光資源となる柴垣などは、PRの余地があるのではないか。また、羽咋市内での宿泊者が増えることにより、経済的効果もまちの賑わいにもつながるため、宿泊数増加に結び付くイベントなども開催してはどうか。

(回 答) 岸市長：昔は柴垣に民宿が50ほどあったが、後継者不足で減少した。海水浴場も閉鎖となり宿泊施設数が減少しているが、引き続き観光客の宿泊先、SSTR参加者の宿泊先ともに確保に尽力していきたい。応援割についても国・県に要望していきたい。

【採決結果】総合評価：◎

(3) ■基本的施策名：(Ⅲ-2- (3)) 子育て世帯に優しい環境の整備

□重要業績評価指標 (KPI)：都市公園(計 11 公園)の再整備施設数

(質疑①) F 委員：令和 6 年能登半島地震の影響により被害が出ているが、公園等の環境整備は若者が住みやすい市を作るうえで必要である。手厚い復旧と整備をできるだけ早く実施していただきたい。羽咋市としての魅力を作るためにも多面的な視点から総合的な整備計画の策定をお願いしたい。

(回 答) 前田産業建設部長：国の災害査定を活用し、市の負担を減らしながら早急に復旧に当たっていく。あわせて、利用者が戻るような取り組みも行っていく。また、岸市長の就任以降公園整備に注力しており、改善整備や遊具設置を行ってきた。今後も市民が親しみをもてる魅力ある公園の整備を行っていく。

(意 見) G 委員：公園の整備は大事なことである。今後も継続してもらいたい。

【採決結果】 総合評価：◎

(4) ■基本的施策名：(Ⅳ-4- (1)) JR 羽咋駅周辺の整備

□重要業績評価指標 (KPI)：①旧マルシェ跡地の整備完了(R6 年度まで)

(質疑①) H 委員：羽咋にこれまでなかった施設ができて、喜んでいる人が多い。しかし、座りたくても座れない人がいる状況になっている。席を増やすなど対策できないか。また、駐車場が不足しているという意見もある。運動公園などについても、公園はきれいだが周辺が草だらけになっているので周辺の整備が必要だと思う。

(回答①) 崎田まちづくり課長：LAKUNA はくいいには多い日で 4,000 人、一日平均約 1,500 人の来館者がある。夏休みのため来館者も多いと考えている。屋内公園の利用について高校生向けの注意喚起も行っている。駐車場については、引き続き増設工事を行っていく。

(回答②) 岸市長：秋になれば外に席を設置することも検討している。駐車場は地震により護岸が崩れ一部確保が遅れているが整備できれば駐車場の不足については少し改善される。また、南通り線の拡幅に伴って、空き地ができれば駐車

場の増設ができる可能性がある。

公園周辺の整備に関して、フラワーメイトが花を植え、ボランティアが草刈りをしている。今後環境が整い市民が集う良い循環が生まれるよう予算をかけ行政とボランティアで景観の維持・ごみの管理などを行っていく。

(質疑②) G 委員：羽咋市内にはハンドメイドのようなものづくりが好きな方が多くいる LAKUNA はくいでハンドメイド作家などが気軽に出店できるスペースやイベントがあると良い。

(回答②) 崎田まちづくり課長：3 階にアートスタジオがあるため、販売だけでなく製作教室などもしていければ嬉しい限りである。

【採決結果】 総合評価：◎

(5) ■基本的施策名：(V-1- (2)) 地域活力の維持と協働のまちづくりの推進
□重要業績評価指標 (KPI)：②若者、小中校生による羽咋創生事業の提案数

(質疑①) I 委員：中学生は発表の場があるとのことだが、小学生に対してはどのように対応しているのか。

(回答①) 崎田まちづくり課長：生涯学習課で出前講座を実施している。また、ふるさと教育を重要視しているため各課で連携して取り組んでいきたい。

(意見①) I 委員：小学生にもまちづくりの発表などあるといいと思う。

(回 答) 崎田まちづくり課長：総合学習などでできるか教育長とも意見交換したい。

(質疑②) A 委員：中学生の発表内容について知る機会があると良いと思うがホームページ等で公開しているか。また、していなければ公開してはどうか。

(回答②) 崎田まちづくり課長：住民向け学習会で発表しているが、参加者のみを知ることができる状態のため、今後ホームページでの公開を検討していく。

(意見③) J 委員：小学生からの意見も募集をおこなってほしい。羽咋市内の小学生は、

ふるさと教育で、自分たちのまちについて勉強しており、調べたことを基に、他校との交流も行っている。この活動について保護者は知っているし、ホームページでも公開している。小学生からもどんどん募集していけば良いと思う。

(質疑③)H 委員：目標タイトルについて「人口減少時代に対応した」とあるが、ネガティブな言葉を使わずに、もっとポジティブな言葉を使用したほうがいいのではないか。柳田・千路・鹿島路のコミュニティについても施策を立ててほしい。

(回答③)岸市長：子供たちの提案について、駅前商店街のSDGsの取り組みで、子どもたち自身がテーマを作って自然環境の提案をしていた。柔らかな観点が素晴らしいと感じている。ふるさと教育について今後も力を入れていく。ふるさとのすばらしさ施設や自然などのいいところを勉強していくことが、これからのまちづくりに必要だと考えている。羽咋市は人口減少にあわせてコンパクトシティを目指している。長期的に中心地へ施設を持ってこようと考えている。一方、地域については、例えば余喜地区は余喜小学校の跡地を利用し、地元のコミュニティの活性化を目指している。昨年より地元の方々と市の職員合わせて、いろんな形でアイデアを募りながら、活動を行っている。地域のコミュニティづくりは短期間ではなく長期間のスパンが必要。鹿島路／越路野地区に関しても時間をかけて行政がフォローしながら、コミュニティづくりをしていく。上甘田地区はサーフィンやグランピング、妙成寺などもあり、他地域からの人の流れがある。また、能登地域ではR8年に向けてトキの放鳥も予定しており、災害復興のシンボルになっていくと考えている。このように、人が減っていく中でも、市民が羽咋市に住んでよかったと思える「住みがいのあるまち」を作っていく必要がある。

(意見④)K 委員：小中の義務教育において、キャリア教育に力を入れている。羽咋市教育委員会では今年度「ふるさと教育」を重点施策の一つとして取り組んでおり、ふるさと教育は町会や地区単位だけでなく、羽咋市や能登地域・石川県といった広い視野でとらえていくことも必要と考えている。また、小中学生だけでなく、高校、保育園までも含めた縦のつながりをしっかりと持って、子どもたちを育成していく必要があると考えている。

【採決結果】 総合評価：◎

8. 一括審査

資料1 評価（案）のとおり、評価を決定。

9. 講評

（1）オブザーバー：北陸財務局総務課長 辻 智子

社会動態がプラスに転じており素晴らしいと思う。地方創生や地域連携という課題は重要な位置づけとして私たちもサポートしている。能登半島地震の被害など大変な状況であり、できる限り協力していきたい。

（2）オブザーバー：石川県中能登総合事務所 大島 和宏 所長

高校生の就職や移住などの課題は近隣市町と連携し、公園整備や子育て支援は市独自で行うなど市単独で行う課題と近隣市町と連携する課題を上手く仕分けすると思う。LAKUNA はくいがオープンし、また新たなまちづくりがあらためてスタートしたと思う。

（3）アドバイザー：公立小松大学サステイナブルシステム科学研究科

高山 純一 教授

総合戦略第2期の最終年度の評価ということで社会動態がプラスに転じたことは本当に素晴らしい。第1期から第2期にかけて努力してきたことが実ったと思う。今現在、国は広域地方計画の策定を行っている。北陸三県の人口が減少しており特に18歳人口の転出が多いが、一度都市部へ進出後ふるさとになかなか戻ってこないことが問題であると思う。そういった中でふるさとの魅力を知るふるさと教育が重要であり、それを先駆けて行っていることは素晴らしいことである。また、ふるさとに戻ろうとした際に戻れる環境かということも重要であり、子育て環境の整備や企業誘致が重要となってくる。企業誘致については大企業の地方拠点になるような企業をうまく誘致するというの一番重要なことと思う。それから、交流人口についてはSSTRのような大規模のイベントも良いが、年間を通して人が集まるようなイベントを行うことでより交流人口の増加につながるのではないかと。また、公園整備については様々な年齢層が集まる公園になるよう多面的な整備が行えると良いと思う。LAKUNAはくいに1日あたり市人口の1割以上が訪れているのはすごいこと

である。今後は飽きられることがないようにソフト事業への注力が必要であると思う。石川県の中でも羽咋市の学力は高水準ということでその知識を知恵に変えていけるような取り組みを行えばクリエイティブな人材育成につながると思う。

(3) アドバイザー：金城大学総合経済学部設置準備室(金沢大学 客員准教授)

平子 紘平 准助教/博士(工学)

社会動態増について3点お話しをする。

1点目はテレワークが普及してきて移住者が増えてきている。しかし、移住者から聞き取りをすると地域によっては「文化の香りがしない」などの意見がある。都会の人は歩くことに抵抗感がないため、LAKUNAはくいや千里浜ヒルズの付近までの歩いていける距離に人が集まれる何かができると良い。「歩ける街」「文化がある」を強調していけば、首都圏からの移住者の呼び込みにつながるのではないかな。

2点目に大学には地元就職の目標値があり、在学生の8割が地元志向である。だが、企業について知らない部分があり、現在企業を知るための活動をしている。そのため、県内大学にも声をかけてもらい、学生を呼び込むことをしていけばより良い形になっていくと考えられる。

3点目に社会動態がプラスになったが外国人の力が大きい。外国人が増加すると起きてくる問題もあるため、多文化共生が必要となってくる。留学生に対する文化体験のような交流はあるが実習生にもそのような交流の場があると良いと思う。そうすることで、安心した地元住民と外国人の交流の場が築けると思う。

10. その他（事務連絡等）

(1) 効果検証の報告書を事務局で取りまとめて、9月中に会長と副会長を中心に岸市長へ戦略会議として提言して頂く場を設ける。

以上1点についての事務連絡を行った。